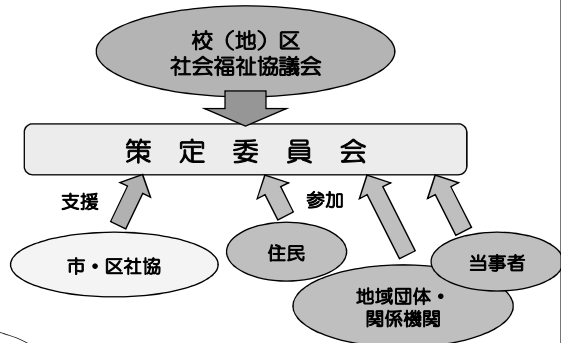


小地域福祉活動計画について

小地域福祉活動計画とは

校(地)区社会福祉協議会が中心となって、住民や各種の地域団体・関係機関などに呼びかけて策定する、校(地)区の5カ年の活動計画です。



既計画策定校(地)区は59校(地)区

※ 昨年度末現在

今年度計画策定予定校(地)区は69校(地)区

※ 2次計画、3次計画を含む

校(地)区社協の「やりたいこと」を実現するために

みなさんの地域でも小地域福祉活動計画をつくってみましょう。
区社協が全面的にお手伝いします！

• うちの校区では、隔週でサロンを開催しているよね。
• 朝、登校中の子どもたちを見守るしくみもあるね。
【これまでの取組みの整理】

• 足が悪くなったからサロンへ行けないって人が何人かいるよ。
• 放課後、子どもたちの居場所もあるといいね。
【課題の洗い出し】



• うちの特別養護老人ホームのバスで、サロンの送迎をしますよ！
• 子どもたちの居場所を市民センターでつukれないかな。
【具体的な取組の検討】

• サロン参加者は、放課後の時間帯の開催でも大丈夫だって！
• おとなも子どもも集まれるサロンにしよう！
【基本計画の修正】

子どもから高齢者までみんなが集えるサロンをつくろう！【目標】

ニーズ発見から計画づくり、買い物支援のしくみへ

小森江東校区社会福祉協議会(門司区)の小地域福祉活動計画の策定を通じて、知的障害者福祉施設(ひかり工芸社)の利用者が担い手として地域の中で活躍する、買い物困難者への支援の取り組みを創出！

始めたきっかけ

地域支援コーディネーターが、地域の困りごとについて話し合う場(連絡調整会議)で「最近足腰が弱って買い物に困っている人が増えてきた」と聞いたことを機に、地域の課題や高齢化率等の情報を見える化し、校区全体の課題であることへの気づきにつなげた

施設職員の声

いままでは「地域のための取組」といってもどうすれいいかわからなかったが、施設内でも話し合う機会が生まれ、地域の一員として私たちに求められている役割を見出すことが出来た

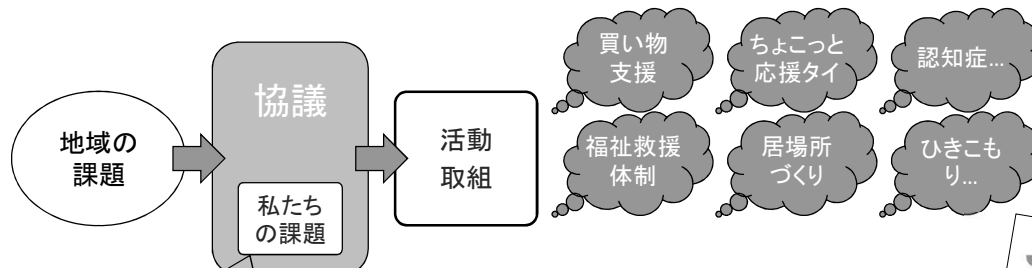
実践の経過

校区では、小地域福祉活動計画づくりに取り組んでいたため、多様な主体の参画を得ながら、地域の困りごとの解決に向け、団体・施設等がどのような関わりが出来るのかをじっくり話し合うことができた

社協職員が留意した点

〇活動者には一定の負担感が生じることを認識した上で、どう役割を分担するかを考える〇地域の困りごとを具体的に解決することで、地域活動者のやりがいにもつながるという好循環を生み出していく

地域づくりで「話し合いの場」を重視する理由



協議の場の構成や方法によって、「私たちの課題」として認識できることが違ってくる
↓
多様な主体の参画を得るためのはたらきかけが重要！

地域の皆様の幅広いご意見を計画に取り組むために、社協役員以外の各方面の方に、策定委員になっていただくよう、ご案内を差し上げましたところ、ほとんどのの方が快く引き受けてくださいました。無事、六月一日に第一回策定委員会を開催することができました。この光貞の良いところと問題点を話し合いましたが、良いところがたくさん出され、我々は素晴らしい地域に住んでいるんだなと改めて実感しました。この地域を更に良くするための素晴らしい計画ができるのではと希望が湧きました。この社協だより「みつさだ」が皆様に届くころは、第一回が開催され、更に白熱した話し合いが持たれるものと期待しています。

光貞校区社会福祉協議会
広報誌 **みつさだ**

令和4年7月15日
第16号

